

視 察 報 告 書

報告者氏名 小田 桐 たかし ㊟

1 委員会名

議会運営委員会

2 期 日

令和2年1月23日（木）～同24日（金） 1泊2日

3 視察地及び調査事項

- (1) 1月23日（木） 岩手県北上市
ア 市議会ICTとペーパーレス化について
- (2) 1月24日（金） 岩手県一関市
ア 市議会報告会の充実策について
イ 音声会議録認証システムについて

4 所感等

■北上市一市議会ICTとペーパーレス化について

タブレット導入と一体でペーパーレス化を可能な範囲まで広げた取り組み、その導入にあたって行政を含め組織的な議論を積み重ねられてきた経緯には、本市の取り組みの甘さへの反省も含め、学ぶ点が多くあった。

ただし、日々進歩が激しいタブレットを使いこなし、議会・議員活動を飛躍的に改善できるかどうかは未知数であることも実感した。そもそも、4年毎に顔触れが入れ替わり、議会ルール of 徹底さえ不十分な点もあり、また「議員像」も「政策」「捉え方」も異なる集合体である「議会」であり、かつ論戦がメインである議会にとって、またICT技術への知識や技術もまばらな議員にとって、タブレットの世界のみに縛られてしまわないか、とりわけ市民の日々の苦難にどう寄り添い、解決するために奔走する議

員活動をサポートし、飛躍させる道具にまで落とし込めるのかは未知数と言える。

しかしながら、議員一人当たりの面積や人口、地形など自治体議会によって千差万別であり、災害など日々何があるかは想定できないもとで、ICT技術は日々進化し、『議員』という世間では超少数派をも凌駕し、誰もが気軽に使え、そのスピードも技術も進化に追い付き、追い抜くことができるとすれば、自治体をチェックし、政策提言の合議体であるべき『議会』及び市民に一番身近な『議員』活動がとてつもなく飛躍する可能性を秘めていることも事実であり、関心を持ち、日々の議員及び会派、議会活動へとつなげられるように努める必要性を感じた。

30年に及ぶ交流を通じ、2020年1月29日に本市と姉妹都市の締結となる北上市について、委員会視察項目以外に工業団地等も視察し、かつ、2021年には市町村合併・市施行30年、鬼剣舞などみちのく芸能まつり60年、桜の展勝地事業100年という3事業のお祝いを迎える歴史を学ぶことができた。行政同士の「姉妹」にとどめず、行政および議会、そしてそこに住む住民の方々の日々の生活や事業の積み重ねを共に祝い、共に学び共感しあう関係作りを引き続き重ね、市民生活の実感として「姉妹」になれる関係性の構築に引き続き意を払う必要性を感じた。

■ 一関市一市議会報告会の充実策、音声会議録認証システムについて

議会報告会の充実策について、会の運営は当市議会と大きな違いはないものの、全世帯を対象とした回覧、コアラTV活用による宣伝は不十分であることから、投資でも大いに取り入れるべきである。

同時に、市町村合併や地域における高校等と議会との距離感が異なることから、高校等に出向き議会報告を行う一関方式の導入には時間はかかるものの、議会側から歩み寄り、高校生の意見に耳を傾ける姿勢そのものは、率直に学ぶ必要がある。また、常任委員会毎に所管する関係団体と意見交換を重ねる取り組みは、市

民に身近さを感じて頂き、作業単価の違いなど市民生活の息づかいを議会・議員がじかに触れるチャンスでもあることから本市での導入も大いにあり得ると考える。

音声会議録システムは、当議会の委託方式と異なる方法を学べ参考になったが、各手法のメリット・デメリットを考慮すれば、当議会の現行方式で経緯を見守ることが必要と感じた。

.....
.....